

松蔭 校長室だより

一校長から保護者の皆様へのメッセージですー

2024年 7月 1日 発行

松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井 直光

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。(ローマの信徒への手紙 12:15)

喜びを分かち合う

保護者の方との立ち話で、介護が話題になりました。その方は、「親の介護は、苦勞を分け合う人がいない」とおっしゃいました。やっている者にしか分からない、という意味であると同時に、耳を傾けてくれる相手がいれば、負担感が減るように感じるということのように思いました。カウンセリングの世界では、話すことは、心のわだかまりを自分から「離す」こと、自分の外へ「放す」こと、だと言います。

逆に、喜びは、分かち合うことで減ることはなく、むしろ一層大きくなるように思います。先月19日、今年度第1回のアゼンブリー(生徒集会)を開催しましたこの集まりでは、生徒会からの連絡のほか、校長の私が代読する形で「表彰式」を行います。今回は、前年度末以来の様々な分野の生徒活動を表彰しました。クラブ活動では全国大会から灘区大会まで、地区予選や本選を問わず、団体・個人を問わず、また学年を問わず表彰します。文化部のコンテストやイベントの成果も表彰しますし、個人の活動や習い事、毎年恒例の校内読書感想文コンクールも対象です。図書館で1年に50冊以上の本を借りると、貸出しカードがゴールドにステップアップしますが、これも到達者を表彰しています。表彰された生徒が賞状を手に、演台の前で客席に向き直して一礼すると、場内に大きな拍手が鳴り響きます。受賞者とともに生徒全員が喜びを分かち合う瞬間です。

今月下旬より、パリ オリンピック・パラリンピックが開幕します。古代オリンピック発祥の地、ギリシアのオリンピアで採火された聖火はすでにフランスに上陸しています。現在、各地で聖火リレーが続いており、あとは26日の開会式を待つばかりです。「オリンピックは参加することに意義がある」1896年、近代オリンピック創始者、クーベルタン男爵の有名な言葉ですが、彼は、その前夜の礼拝で語られた、米国の聖公会のエセルバート・タルボット主教の次のメッセージに触発されたといえます。

“Though only one may wear the laurel wreath, all may share the equal joy of the contest.”

(月桂樹の花輪を身に着けるのはたった1人ですが、だれもがその試合の喜びを分かち合うでしょう)

今回のオリンピックには、いくつかの新種目が加わりました。注目したい種目は「ブレイキン」です。これはダンススポーツの一種で、日本ではブレイクダンスという名で知られています。DJが流す音楽に合わせ、1対1で即興の1分間のダンスパフォーマンスを繰り返し、勝敗を決するそうです。会場では、選手を含めてまさに全員で「試合の喜びを分かち合う」シーンが見られるでしょう。

分かち合いについて報告をひとつ。先月、学校にお礼の電話をいただきました。その方は、地下鉄の駅で下車した際に、座席に携帯電話を置き忘れてしまったそうですが、ひとりの松蔭生がホームまで追いかけてきて、忘れた携帯電話を手渡してくれた、ということです。「その生徒さんが、降りる駅だったのかどうか分からないが、とにかく感謝の気持ちを伝えたい」と、連絡していただきました。皆で分かち合いたい喜びです。



<廊下で質問タイム (6/24撮影)>

公的助成 (2023年度の国、兵庫県、神戸市からの補助金) の報告

私立学校は、建学の精神にもとづき、各校独自の教育方針により運営されていますが、公教育の一翼を担っていることから私立学校振興助成法等にもとづき、国、県、市からの助成を受けています。「経常費補助金」等として主に

教職員人件費等に充当し、保護者の皆様からの校納金負担の抑制を図るなどの措置を行っています。

このたび、前年度（2023年度）の本校への公的助成金額が以下のとおり決定しておりますので、報告いたします。

<2023年度分 松蔭中学校・松蔭高等学校への私学助成>

○兵庫県経常費補助金等	287,402,000 円	○国庫補助金	209,000 円
○神戸市補助金等	3,217,973 円	*高校生への就学支援金	40,913,400 円